

**KORELASI PENGUASAAN KOSAKATA DENGAN
KEMAMPUAN PEMAHAMAN MEMBACA**
(Penelitian Deskriptif pada Mahasiswa Tingkat II Jurusan Pendidikan
Bahasa Jepang UPI Tahun Ajaran 2010/2011)

SKRIPSI

Diajukan untuk Memenuhi Sebagian Syarat Memperoleh Gelar Sarjana
Pendidikan Jurusan Pendidikan Bahasa Jepang



Oleh :

DADI HARDI

060393

JURUSAN PENDIDIKAN BAHASA JEPANG
FAKULTAS PENDIDIKAN BAHASA DAN SENI
UNIVERSITAS PENDIDIKAN INDONESIA

2011

LEMBAR PENGESAHAN

Nama : Dadi Hardi
NIM : 060393
Judul Skripsi : Korelasi Penguasaan Kosakata dengan Kemampuan
Pemahaman Membaca (Penelitian Deskriptif pada
Mahasiswa Tingkat II Jurusan Pendidikan Bahasa
Jepang Tahun Ajaran 2010/2011)
SK Dekan No : 3426/H40.3/DT/2010

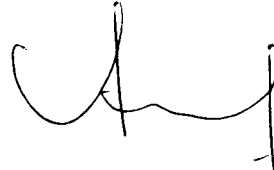
Disetujui oleh :

Dosen Pembimbing I



Dr. Wawan Danasasmita, M.Ed.
NIP. 195201281982031002

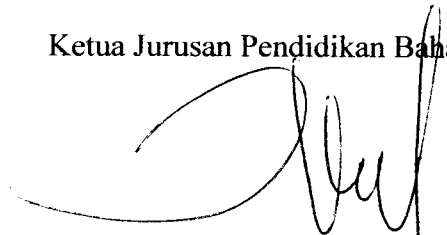
Dosen Pembimbing II



Drs. Ahmad Dahidi, M.A.
NIP. 195802281983031004

Mengetahui,

Ketua Jurusan Pendidikan Bahasa Jepang



Drs. Mulyana Adimihardja, M.Ed.
NIP. 194906301980031001

PERNYATAAN

Saya menyatakan bahwa skripsi yang berjudul **Korelasi Penguasaan Kosakata dengan Kemampuan Pemahaman Membaca (Penelitian Deskriptif pada Mahasiswa Tingkat II Jurusan Pendidikan Bahasa Jepang UPI Tahun Ajaran 2010/2011)** ini sebagai karya sendiri. Tidak ada bagian di dalamnya yang merupakan plagiat dari karya orang lain dan saya tidak melakukan penjiplakan atau pengutipan dengan cara-cara yang tidak sesuai dengan etika keilmuan yang berlaku dalam masyarakat keilmuan. Atas pernyataan ini, saya siap menanggung resiko/sanksi yang dijatuhkan kepada saya apabila kemudian ditemukan adanya pelanggaran terhadap etika keilmuan dalam karya saya ini, atau ada klaim dari pihak lain terhadap keaslian karya saya ini.

Bandung, Januari 2011
Yang membuat pernyataan,

DADI HARDI

*It may be that you dislike a thing, which is good for you and that you like a thing which is bad for you. Allah knows but you don't.
(Al Baqarah:216)*

*This paper is dedicated to my family as
small token of respect, loves, and thanks
for all they have given*



ABSTRAKSI

“Korelasi Penguasaan Kosakata dengan Kemampuan Pemahaman Membaca”

(Penelitian Deskriptif pada Mahasiswa Tingkat II Jurusan Pendidikan Bahasa Jepang UPI Tahun Ajaran 2010/2011)

Dadi Hardi
060393

Penelitian ini berjudul “Korelasi Penguasaan Kosakata dengan Kemampuan Pemahaman Membaca.” Tujuan dari penelitian ini adalah, (1) untuk mengetahui kemampuan penguasaan kosakata mahasiswa tingkat II Jurusan Pendidikan Bahasa Jepang UPI tahun ajaran 2010/2011, (2) untuk mengetahui kemampuan pemahaman membaca mahasiswa tingkat II Jurusan Pendidikan Bahasa Jepang UPI tahun ajaran 2010/2011, dan (3) untuk mengetahui apakah ada hubungan antara penguasaan kosakata dan kemampuan pemahaman membaca.

Populasi pada penelitian ini yaitu mahasiswa tingkat II Jurusan Pendidikan Bahasa Jepang UPI tahun ajaran 2010/2011. Sampelnya diambil secara purposif sebanyak 27 orang dari populasi, yaitu mahasiswa yang telah mengikuti mata kuliah *Chukyuu Dokkai I*.

Metode dalam penelitian ini yaitu metode deskriptif dengan menggunakan teknik analisis korelasi dan regresi . Penelitian ini mengukur nilai hubungan antar dua variabel. Pengumpulan data dilakukan dengan menggunakan tes. Hasil tes kemudian dihitung dengan menggunakan penghitungan statistik.

Dari hasil analisis data, diperoleh nilai rata-rata penguasaan kosakata sebesar 7,44. Nilai ini termasuk kategori cukup. Sedangkan nilai rata-rata kemampuan pemahaman membaca sebesar 6,39. Nilai ini termasuk kategori kurang. Nilai korelasi pada hasil penelitian ini menunjukkan kontribusi yang positif. Nilai korelasinya yaitu sebesar 0,63, ini berarti termasuk ke dalam kategori tinggi /kuat. Jika dilihat dari hasil tersebut, terbukti bahwa terdapat hubungan yang signifikan antara penguasaan kosakata dan kemampuan pemahaman membaca. Selain itu dibuktikan juga dengan nilai koefisien determinasinya sebesar 39%. Artinya, kemampuan pemahaman membaca dipengaruhi oleh penguasaan kosakata sebesar 39% dan 61% lainnya dipengaruhi oleh faktor lain.

Kata kunci: Penguasaan Kosakata, Dokkai, Korelasi



語彙能力と読解能力の相関関係
(2010・2011年度のインドネシア教育大学日本語教育学科の第二学年の学習者に対するデスクリプト研究)

Dadi Hardi
060393

要旨

本研究は「語彙能力と読解能力の相関関係」という題名である。研究の目的は (1) 2010・2011年度のインドネシア教育大学日本語教育学科の第二学年の学習者の語彙能力を知るためである、(2) 2010・2011年度のインドネシア教育大学日本語教育学科の第二学年の学習者の読解能力を知るためである、(3) 語彙能力と読解能力は相関関係があるかないかを知るためである。

研究の対象者は2010・2011年度のインドネシア教育大学日本語教育学科の第二学年の学習者である。サンプルは対象者から purposif テクニックで中級読解Iをすでに受けた学習者で、27人である。

研究の方法は regresi テクニックと相関関係テクニックでデスクリプト法である。この研究には二つの変数関係点を計るということである。データを得るためにテストを使用する。テストの結果は統計で計算する。

データを分析した結果、対象者の語彙能力の平均点は7,44で、十分ということである。読解能力の平均点は6,39で、悪いということである。研究の結果は相関関係点が積極的に貢献する。相関関係点は0,63で高いカテゴリーに入った。その結果をみれば、語彙能力と読解能力は相関関係があると検証できた。その上、決定係数点は39%である。つまり、読解能力は39%ぐらい語彙能力に影響された。61%には他の局面に影響された。

キーワード: 語彙能力、読解、相関関係

A. はじめに

日本語教育の学習の目的は聞く能力、話す能力、読む能力、書く能力を得るためである。読む能力を得るために、日本語教育学科のカリキュラムには読解の科目がある。日本語教育教授においては、読解は非常に大事なことである。テキストを読むことによって、何かが分かって、新しい情報を得ることもできる。それから、読解は他の授業に支援になることが言える。読解教育教授の目的に基づいて、読解をすでに受けた学習者は語彙、表現、構成語を含んで、内容が理解できる。

事実には読解は難しいと思っている学習者が多い。日本語のテキストが理解できない学習者も少なくない。この難しさは筆者に限らず、他の学習者も同じ気持を感じる。Utami (2010) によると、データを分析した結果、2009・2010年度のインドネシア教育大学日本語教育学科の第一学年の学習者の読解能力の平均点は54,2で、足りないということである。

一つの原因は語彙能力の影響があると思われる。語彙は言語を支配するために、大切な部分である。語彙が足りなかったら、学習者が外国語としての日本語の学習はうまくいかなくて、問題になることも言える。しかし、語彙能力がよかったら、四つの言語能力が得ることができる。

以上の解説に基づいて、語彙能力と読解能力は相関関係があるかないかと考えてきた。筆者は語彙能力と読解能力の相関関係を知るために、2010・2011年度のインドネシア教育大学日本語教育学科の第二学年の学習者に対するデスクリプト研究を行う。本研究は「語彙能力と読解能力の相関関係」という題名である。本研究の問題設定は以下のようなものである。

1. 2010・2011年度のインドネシア教育大学日本語教育学科の第二学年の学習者の語彙能力はどうであるか。
2. 2010・2011年度のインドネシア教育大学日本語教育学科の第二学年の学習者の日本語の読解能力はどうであるか。
3. 語彙能力と日本語の読解能力は相関関係があるか。

B. 研究の目的

本研究の目的は以下のものである。

1. 2010・2011年度のインドネシア教育大学日本語教育学科の第二学年の学習者の語彙能力はどうであるかを知るためである。
2. 2010・2011年度のインドネシア教育大学日本語教育学科の第二学年の学習者の日本語の読解能力はどうであるかを知るためである。
3. 語彙能力と日本語の読解能力は相関関係があるかないかを知るためである。

C. 研究の方法

1. 研究の方法

研究の方法は *regresi* テクニックと相関関係テクニックでデスクリプト法である。この研究には二つの変数関係点を計るということである。データを得るためにテストを使用する。テストの結果は統計で計算する。

本研究の対象者は 2010・2011年度のインドネシア教育大学日本語教育学科の第二学年の学習者である。サンプルは対象者から *purposif* テクニックで中級読解 I をすでに受けた学習者で、27 である。

2. 研究の用具

データを集めるためにテストを行う。テストは二種類ある。

- a) 語彙能力のテストで、2010・2011年度のインドネシア教育大学日本語教育学科の第二学年の学習者の語彙能力を計算するために行う。テストは日本語の能力試験の3級の問題から取る。
- b) 読解能力のテストで、2010・2011年度のインドネシア教育大学日本語教育学科の第二学年の学習者の読解能力を計算するために行う。テストは日本語の能力試験の3級の問題から取る。

3. データ収集のテクニック

本研究データ収集のテクニックは以下のようである。

- a) 語彙と読解の理論根拠を知るために文献調査を行う。
- b) 2010・2011年度のインドネシア教育大学日本語教育学科の第二学年の学習者の語彙能力と読解能力を知るためにテストを使用する。

4. データ処理のテクニック

データを集めてからそのデータを分析する。この研究には二つの変数関係点を計るということである。X変数は語彙能力のテストの評価でY変数は読解能力のテストの評価から取る。本研究のデータ処理のテクニックは以下のようである。

- a) 分析条件のテスト
 - 1) 変数の同種のテスト

変数の同種のテストは研究の対象者は同種かいないかを知るために行う。このテストの使用した公式は以下のようである。



$$F = \frac{Sx^2}{Sy^2}$$

Sx^2 と Sy^2 の点を知るために、この公式を使用する

$$Sx^2 = \sqrt{\frac{N \cdot \sum x^2 \cdot (\sum x)^2}{N \cdot (N-1)}}$$

$$Sy^2 = \sqrt{\frac{N \cdot \sum y^2 \cdot (\sum y)^2}{N \cdot (N-1)}}$$

2) データの平常のテスト

本研究のデータの平常のテストは Kolmogorov Smirnov テストで使う。

b) 相関関係のテスト

相関関係のテストは二つの変数の関係点を知るために行う。このテストの使用した公式は以下のものである。

$$r_{xy} = \frac{N \sum XY - (\sum X)(\sum Y)}{\sqrt{[N \sum X^2 - (\sum X)^2][N \sum Y^2 - (\sum Y)^2]}}$$

分析したあとで、相関関係の解釈の表と比較する

相関関係の解釈表

相関関係点	解釈
0,00 ~ 0,20	非常に低い
0,21 ~ 0,40	低い
0,41 ~ 0,60	十分
0,61 ~ 0,80	高い
0,81 ~ 1,00	非常に高い

(Sutedi, 2009:184)

c) レグレシオンのテスト

レグレシオンのテストはY変数がX変数に影響されたか
ないかを知るためである。このテストの使用した公式は以下のよう
である。

$$Y = a + bX$$

$$a = \frac{(\sum X^2)(\sum Y) - (\sum X)(\sum XY)}{N \sum X^2 - (\sum X)^2}$$

$$b = \frac{N \sum XY - (\sum X)(\sum Y)}{N \sum X^2 - (\sum X)^2}$$

d) 意犠牲のテスト

このテストの使用した公式は以下のようである。

$$t = \frac{r \sqrt{n-2}}{\sqrt{1-r^2}}$$

もし、計算した結果は表の有意犠牲点より大きい
で、この結果は有意味ということである。

Y変数はX変数にどのぐらい影響されたを知る
ために、決定係数の計算を使用する。公式は以下のようである。

$$KD = r^2 \times 100\%$$

D. 分析の結果

データを分析した結果、対象者の語彙能力の平均点は 7,44 で、十分ということである。読解能力の平均点は 6,39 で、悪いということである。変数の同種のテストによって計算した結果は表の点より小さい (2,08 < 2,54)。つまり、本研究のデータは同種ということが出来る。デ

ータの平常テストの結果によってX変数とY変数のデータは 0,05 より大きい。つまり、本研究のデータは平常とすることができる。

本研究の相関関係点は 0,63 である。相関関係の解釈表を見れば高いカテゴリに入る。本研究の有意犠牲点は 4,04 で計算した結果は表の点より大きい (4,04 > 2,06)、この結果は有意味ということで仮説も承認された。決定係数の計算によって、本研究の決定係数点は 39%。つまり、読解能力は 39%ぐらい語彙の能力に影響された。61% には他の局面に影響された。レグレシオンテストに $Y = a + bX$ の公式で研究のデータを計算した後、X変数はY変数のレグレシオン点は $Y = 1,44 + 0,66 X$ 。つまり、X変数が1点を上がると、Y変数が 0,66 点で上がるようになる。

E. おわりに

1. 結論

本研究は語彙能力と読解能力の相関関係点を計算する。データを分析した結果、対象者の語彙能力の平均点は 7,44 で、十分ということである。読解能力の平均点は 6,39 で、悪いということである。

本研究の変数はいろいろな計算で分析をしてから、相関関係点は 0,63 で、高いカテゴリに入った。これは語彙能力と読解能力は関係があると検証した。その上、決定係数点は 39% である。つまり、読解能力は 39%ぐらい語彙能力に影響された。61% には他の局面に影響された。

2. 提案

本研究の結果に基づいて、学習者の読解能力を高めるために今後の課題は考えている。

- a) 日本語の読解能力に影響されたから、語彙能力を高めるのは必要である。さらに、漢字や構造分の能力をもっと深く理解したほうがいいと思う。
- b) 日本語テキストの読む回数を増やして、教科書に限らず、新聞や雑誌などを読んだほうがいいと思う。

F. 参考文献

- Arikunto, Suharsimi. (2006). *Prosedur Penelitian*. Jakarta: Rineka Cipta. ✓
- Departemen Pendidikan dan Kebudayaan. (1991). *Kamus Besar Bahasa Indonesia*. Jakarta : Balai Pustaka.
- Kusno, Budi Santoso. (1990). *Problematik Bahasa Indonesia, Sebuah Analisis Praktis Bahasa Baku*. Jakarta: Rineka Cipta.
- Matsura, Kenji. (1994). *Kamus Bahasa Jepang-Indonesia*. Kyoto: Kyoto Sangyo University Press.
- Nurhayati, R.Rina. (2005). *Analisis Kesulitan Belajar Bahasa Jepang dalam Mata Kuliah Dokkai pada Mahasiswa Program Pendidikan Bahasa Jepang UPI Tahun Ajaran 2003/2004*. Skripsi . UPI Bandung: tidak diterbitkan.
- Ogawa, Yoshio. (1982). *Nihongo Kyouiku Jiten*. Tokyo: Taishuukan Shoten.
- Pateda, Mansur. (1988). *Linguistik Sebuah Pengantar*. Bandung: Angkasa.
- Pertiwi, Sekarsari. (2009). *Korelasi Penguasaan Struktur Kalimat dengan Kemampuan Pemahaman Membaca*. Skripsi. UPI Bandung: tidak diterbitkan.
- Poerwadaminta, WJS. (1982). *Kamus Umum Bahasa Indonesia*. Jakarta : Balai Pustaka.
- Salam, Andri. (2008). *Kemampuan Membaca Pemahaman Teks Bahasa Jepang (Dokkai) pada Mahasiswa Tingkat III Program Pendidikan Bahasa Jepang FPBS UPI Tahun Ajaran 2007/2008*. Skripsi. UPI Bandung: tidak diterbitkan.



KATA PENGANTAR

Segala puji, hormat serta syukur penulis panjatkan ke hadirat Allah SWT yang telah memberikan hidayah-Nya sehingga penulis dapat menyelesaikan skripsi ini dengan judul “Korelasi Penguasaan Kosakata dengan Kemampuan Pemahaman Membaca.”

Selama ini, penulis telah banyak menerima bantuan dan dukungan dari berbagai pihak terlebih lagi dalam penyusunan dan penyelesaian skripsi ini. Maka dalam kesempatan kali ini penulis ingin menyampaikan terima kasih yang tak terhingga dengan penuh rasa hormat, kepada :

1. Orang tua dan seluruh keluarga besar yang tidak henti-hentinya memberikan doa, kasih sayang, semangat dan dorongan materil sehingga penulis dapat menyelesaikan skripsi ini.
2. Bapak Drs. Mulyana Adyamiharja, M.Ed, selaku Ketua Jurusan Pendidikan Bahasa Jepang FPBS UPI.
3. Bapak Dr. Wawan Danasasmita, M. Ed, selaku Pembimbing I yang dengan penuh perhatian dan kesabaran telah memberikan pengarahan, bimbingan saran dan motivasi kepada penulis, sehingga skripsi ini dapat diselesaikan.
4. Bapak Drs. Ahmad Dahidi, M.A, selaku pembimbing II atas bimbingan dan bantuannya.
5. Seluruh staf pengajar Jurusan Pendidikan Bahasa Jepang FPBS UPI yang telah memberikan dan membekali penulis dengan ilmu pengetahuan.

6. Bapak Lingga Aditya, selaku staf administrasi di Jurusan Pendidikan Bahasa Jepang FPBS UPI, yang selalu membantu dalam urusan administrasi.
7. Seluruh rekan mahasiswa Jurusan Bahasa Jepang FPBS UPI angkatan 2006.
8. Seluruh pihak yang telah membantu penulis dalam menyelesaikan skripsi ini yang tidak dapat penulis sebutkan satu-persatu.

Semoga Allah SWT membalas semua amal baik serta melimpahkan rahmat serta karuniaNya bagi kita semua. Amin.

Bandung, Januari 2011

Penulis



DAFTAR ISI

ABSTRAK	i
KATA PENGANTAR	xii
DAFTAR ISI	xiii
DAFTAR TABEL	xv
BAB I PENDAHULUAN	
A. Latar Belakang Masalah.....	1
B. Rumusan dan Batasan Masalah.....	3
C. Tujuan dan Manfaat Penelitian.....	4
D. Definisi Operasional	5
E. Anggapan Dasar dan Hipotesis.....	5
F. Metode Penelitian.....	6
G. Sistematika Penelitian.....	9
BAB II KAJIAN PUSTAKA	
A. Kosakata.....	11
B. Membaca.....	18
C. Dokkai.....	22
BAB III METODOLOGI PENELITIAN	
A. Metode Penelitian.....	29
B. Populasi dan Sampel.....	30

C. Variabel dan Desain Penelitian.....	30
D. Instrumen penelitian.....	31
E. Teknik Pengumpulan Data.....	32
F. Teknik Pengolahan Data.....	33

BAB IV DESKRIPSI DAN ANALISIS DATA

A. Deskripsi Data Penelitian.....	37
B. Analisis Data.....	38
C. Pengujian Hipotesis.....	52
D. Pembahasan Hasil Penelitian.....	53

BAB V PENUTUP

A. Kesimpulan.....	56
B. Saran.....	57

DAFTAR PUSTAKA.....	58
----------------------------	-----------

LAMPIRAN

RIWAYAT HIDUP

DAFTAR TABEL

Tabel 1 Nilai Hasil Tes.....	38
Tabel 2 Standar Penilaian UPI.....	40
Tabel 3 Tabel Penolong Untuk Menghitung Analisis korelasi dan Regresi...	41
Tabel 4 Penghitungan Uji Normalitas.....	44
Tabel 5 Penafsiran Angka Korelasi.....	46
Tabel 6 Tabel Penolong Uji Koefisien Arah Regresi.....	49



DAFTAR PUSTAKA

- Arikunto, Suharsimi. (2006). *Prosedur Penelitian*. Jakarta: Rineka Cipta.
- Departemen Pendidikan dan Kebudayaan. (1991). *Kamus Besar Bahasa Indonesia*. Jakarta : Balai Pustaka.
- Kusno, Budi Santoso. (1990). *Problematik Bahasa Indonesia, Sebuah Analisis Praktis Bahasa Baku*. Jakarta: Rineka Cipta.
- Marpaung, Meilina. (2009). *Pembelajaran Kosakata Bahasa Jepang Dengan Menggunakan Metode Cooperative Learning Teknik Snowball Throwing (Studi Eksperimen pada Siswa Kelas XI IPS SMA Angkasa Margahayu)*. Skripsi. UPI Bandung: tidak diterbitkan.
- Matsura, Kenji. (1994). *Kamus Bahasa Jepang-Indonesia*. Kyoto: Kyoto Sangyo University Press.
- Nona, Katherien. (2009). *Analisis Kemampuan Membaca Teks Fiksi dan Non Fiksi Mahasiswa semester V Jurusan Pendidikan Bahasa Jepang FPBS UPI 2009/2010*. Skripsi. UPI Bandung: tidak diterbitkan.
- Ogawa, Yoshio. (1982). *Nihongo Kyouiku Jiten*. Tokyo: Taishuukan Shoten.
- Pateda, Mansur. (1988). *Linguistik Sebuah Pengantar*. Bandung: Angkasa.
- Pertiwi, Sekarsari. (2009). *Korelasi Penguasaan Struktur Kalimat dengan Kemampuan Pemahaman Membaca*. Skripsi. UPI Bandung: tidak diterbitkan.
- Poerwadaminta, WJS. (1982). *Kamus Umum Bahasa Indonesia*. Jakarta : Balai Pustaka.
- Subana dan Sudrajat. (2005). *Dasar-dasar Penelitian Ilmiah*. Bandung: Pustaka Setia.
- Sudjianto & Dahidi, A. (2004). *Pengantar Linguistik Bahasa Jepang*. Jakarta: Kesaint Blanc.
- Sugiyono. (2006). *Statistika untuk Penelitian*. Bandung: Alfabeta.
- Sukmadinata, Nana Syaodih. (2005). *Metode Penelitian Pendidikan*. Bandung : PT. Remaja Rosdakarya.
- Sutedi, Dedi. (2004). *Dasar-dasar Linguistik Bahasa Jepang*. Bandung : Humaniora.



- Subana dan Sudrajat. (2005). *Dasar-dasar Penelitian Ilmiah*. Bandung: Pustaka Setia.
- Sudjianto & Dahidi, A. (2004). *Pengantar Linguistik Bahasa Jepang*. Jakarta: Kesaint Blanc.
- Sugiyono. (2006). *Statistika untuk Penelitian*. Bandung: Alfabeta.
- Sukmadinata, Nana Syaodih. (2005). *Metode Penelitian Pendidikan*. Bandung : PT. Remaja Rosdakarya.
- Sutedi, Dedi. (2004). *Dasar-dasar Linguistik Bahasa Jepang*. Bandung : Humaniora.
- Sutedi, Dedi. (2005). *Pengantar Penelitian Pendidikan dan Bahasa Jepang*. Bandung: UPI.
- Tarigan, Henry Guntur. (1984). *Prinsip-prinsip Dasar Sintaksis*. Bandung: Angkasa.
- Tarigan, Henry Guntur. (1990). *Membaca sebagai Suatu Keterampilan Berbahasa*. Bandung: Angkasa.



- Sutedi, Dedi. (2005). *Pengantar Penelitian Pendidikan dan Bahasa Jepang*. Bandung: UPI.
- Tarigan, Henry Guntur. (1984). *Prinsip-prinsip Dasar Sintaksis*. Bandung: Angkasa.
- Tarigan, Henry Guntur. (1990). *Membaca sebagai Suatu Keterampilan Berbahasa*. Bandung: Angkasa.
- Utami, Tantri Neza. (2005). *Analisis Kesulitan Belajar Bahasa Jepang dalam Mata Kuliah Dokkai pada Mahasiswa Tingkat I Program Pendidikan Bahasa Jepang UPI Tahun Ajaran 2009/2010*. Skripsi . UPI Bandung: tidak diterbitkan.

